

スキップフロアによる障害者グループホームの地域拠点化 — たけし文化センター 田町 —



外観パース 1階の土間空間と階段状に上がっていくテラスと個室のカラフルなボリュームが活動をまちに表出している

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ (以下レッツ)

レッツは2000年の創立より障害や国籍、性差、年齢などあらゆる違いを乗り越えて、様々な人が共に生きる社会の実現を目指し、福祉・文化事業を軸に活動している。2017年に法人代表の久保田翠が芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞した。現在、浜松中心市街地にて、重度知的障害者を軸とした文化発信拠点「たけし文化センター連尺町」や、私設私営の公民館「ちまた公民館」を運営している。

事業の背景

2020年、コロナ禍を機に産業や商業に偏った中心市街地の限界を目の当たりにし、福祉を軸としたまちづくりの実践を本格的に始動した。一般的に重度の知的障害者の活動場所や暮らす場所は、郊外の人目から離れたところにあることが多い。今回、その存在を全肯定し、浜松市の中心市街地に住まい(障害者グループホーム)を設ける。立場の違う人たちがともに暮らすシェアハウスや一般に開放する銭湯も併設し、多様な人々が交流する拠点とする。このような場を地域に開くことで、地方都市の中心市街地のあり方を変えていく。

建築プログラム

- ①地方都市の中心市街地に重度の障害者が住むグループホーム
- ②障害の有無に関わらず集まるシェアハウス・ゲストハウス
- ③福祉施設の住宅設備を地域に開き、多様な人が交流するシェアキッチン・リビング・銭湯

事業の効果

障害者の住まい方の選択肢を広げる

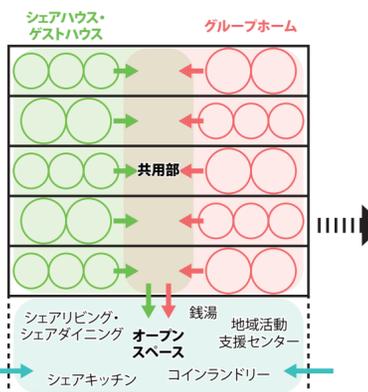
- 入居者のグループホームでの生活体験をもとに、それぞれの特徴やライフステージに合わせて次の住まい方を提案していく。
- 親元から離れた生活に慣れ、地域に知り合いをつくることで、近隣の一般住宅でヘルパーサービスを利用して暮らす障害者を増やしていく。
- 周辺で自立生活をする障害者がシェアキッチンや銭湯を利用することで人とのつながりができ、いざというときのセーフティネットになる。

地域活動の拠点となる

- 多様な人が集まる地域活動の拠点となる(講座、物販、飲食、スポーツなど)
- 下層の共用部で生活介護・地域活動支援センターの障害福祉サービスを実施するが、一般の人でも利用できる地域に開かれた活動場所とする。
- 徒歩2分の高架下のイベントスペース「新川モール」と連携してイベントを開催できる。シェアキッチンを活かして飲食の出店も可能。



浜松駅から徒歩10分圏内を活動拠点としている



事業者の最初の建築イメージ

外部空間の立体的なつながりをつくるステップテラス

敷地は浜松駅から徒歩10分程度の中心市街地ではあるが、西と北の大通りから1本入った車通りの少ない場所にある。間口約8.3M、奥行約25Mの細長い敷地に、計画施設は7階建のボリュームとなり、かつ前面道路が狭いため道路斜線によって高層階にセットバックが必要な計画となる。前面道路から建物をセットバックさせて配置すれば、整形なボリュームを作ることができるが、それよりもセットバックさせることで外部環境の連続性をつくる方が良く考え、斜線制限に合わせてテラスを階段状にセットバックさせている。更に避難にも有効な屋外階段をつなげている。

グループホームを分解して地域に開放

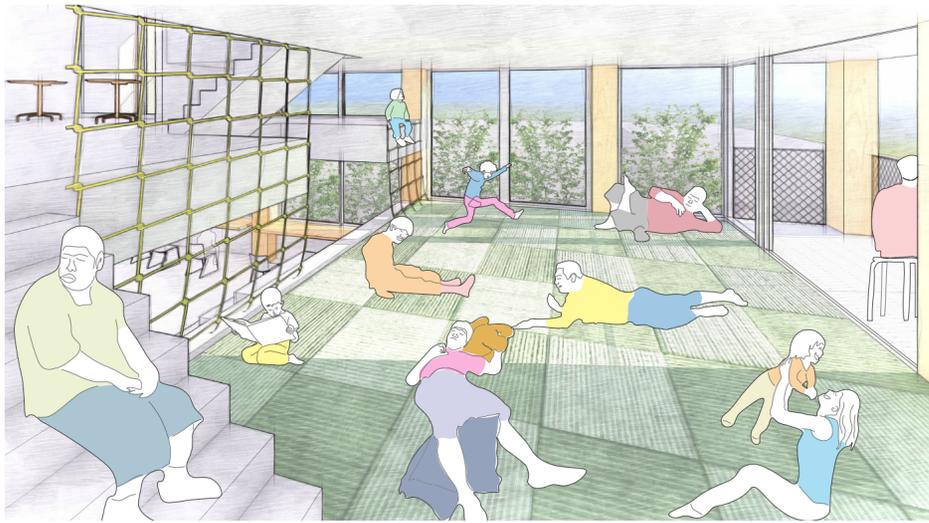
障害者グループホームとシェアハウスを併設させ、共用部で交流させる事業者の考えに対し、福祉制度の設備要件上、グループホームは専用の住宅設備(キッチン、浴室、トイレなど)が必要であることが課題となった。そこで必要最小限の機能を設けた「グループホーム個室エリア」を4層に分けて配置した。それらとは別にシェアハウスと共有し地域に開放する大きなキッチンや大浴場など充実した共用設備を施設内に点在させた。このようにグループホーム入居者の共用部の利用を促進させ、シェアハウス入居者、そして地域の人々が出会い・共生する場をつくり、地域コミュニティを形成する。

上下階をつなげ多様な空間を作るスキップフロア

本計画は障害のある人々のためのグループホームと一般向けのシェアハウスを併置させ、共有部での共同生活の場を作る試みである。高層にならざるを得なく、福祉施設として不利な条件であるが、上下階のつながりがあり、気軽に階を行き来できるスキップフロアとし、共用部となるスキップフロアの両側にグループホームとシェアハウスの個室を配置している。スキップフロアによって、一般的には使いにくい低い場所も生まれるが、その時々での求める場所を、機能ではなく空間自体で使い分けるような空間の多様性を作り出し、利用者の生活を変化に富んだものとする。



断面パース: 1/80 スキップフロアによって立体的に繋がり、そこで様々なコミュニティを育む



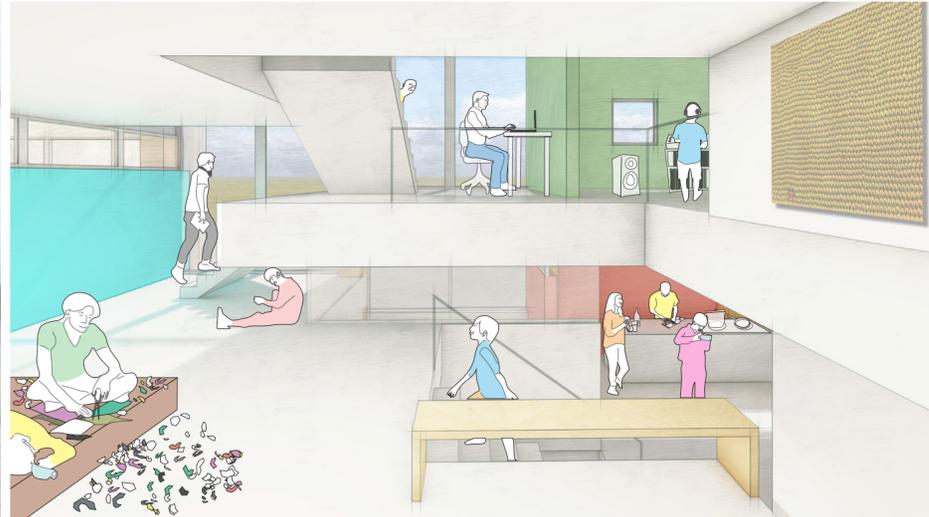
2階シェアリビング 地域の子供たちの遊び場にもなる



6階シェアラウンジ お風呂上がりに涼みながらビールを飲むことができる

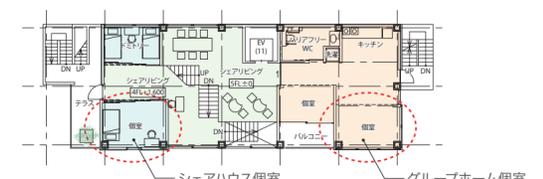


1階前面は天井の高い空間で、多様なイベントが行われる。2階はシェアオフィスとしても利用できる地域活動支援センター



3階シェアリビング 半階上、下にシェアハウス個室と付属のシェアキッチンがあり全体が流動的につながる

多様な入居者のニーズに応える可変性のある個室
グループホーム、シェアハウス、ドミトリーの個室は容易に変更できるように、引戸や家具、カーテンなどで間仕切る計画とし、引戸レールやカーテンレールはいくつかのパターンに対応できるように天井に複数埋込む。そして、個室の中も移動可能な家具を配置する。入居者の生活習慣や必要な支援に応じ、空間をカスタマイズできるようにしている。



Aさん グループホーム入居者 男性 障害支援区分6(知的障害、強度行動障害、てんかん)

共同生活援助と重度訪問介護を併用して生活しながら、日中は別の場所の生活介護事業所に通っている。プライベートは気にしない(?)が、扉の閉まっている(閉まっている)状態にこだわり、他人が開け閉めすると自分で元に戻す。
・常時見守りが必要。
・起きている間は共用スペースと部屋を頻繁に行き来する。
・小上がりにカーペットや毛布、お気に入りのもの(石、タッパー、ギター、琴、キーボード、音が出るおもちゃ、収納ボックス、お菓子など)を出して自分の回りに積み上げていく。特定の人を自分の近くにいるように引き寄せて座らせることもある。
・音が好きなのでBluetoothスピーカーで音楽を流してもらおう。入眠音楽もある。
・荷物は、あまりなく支援者が管理するもの(衣服、薬、介護用品など)が多い。
・案がりで布団や毛布をたくさん利用する。

・支援者が見守りで利用できる緑側+フロアリングの小上がり
・部屋の内側に本人のこだわりグッズや毛布などの収納(オープンな棚)
・外側に支援者が管理する収納
・小上がりに布団を収納
・部屋の仕切りは、外から本人の気配がわかるカーテン、入眠時に外からの刺激を抑える引戸を用意

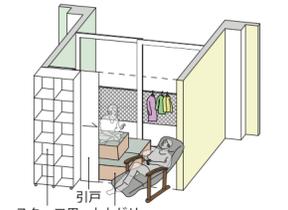


スタッフ用 引戸 緑側 小上がり 収納

Bさん グループホーム入居者 男性 障害支援区分6(知的障害、強度行動障害、難聴)

共同生活援助と重度訪問介護を併用して生活しながら、日中は別の場所の生活介護事業所に通っている。
・睡眠時の無呼吸かひどいので安楽椅子で寝ている。
・音が好きで、指先ですべての感触を楽しんだり、近く近づけてよく見たりする。
・高いところが好きで、なるべく高い椅子や階段を登った高い場所によく行くこととする。
・きれい好き(?)で、ゴミが落ちていたり拾って見えないところに投げられる。物の配置も自ら整える。
・不満があると壁を蹴ったり、地団駄を踏む。壁を何回か穴を開けている。
・物にあまり関心がなく、生活に必要なものは支援者が管理する。(衣服、薬、介護用品など)

・安楽椅子を置くフロアリング+畳の小上がり+さらにもう一段畳の小上がり(サウナ室みたいなイメージ)
・中の収納はほとんど必要なく、支援者が管理する外側の収納。
・仕切りは通常の引戸。
・床や壁は頑丈もしくは簡単に直せる仕様。
・外で過ごすことが好きなので自由出入りできるベランダがあるといいが、本人の転落防止と物を落とさないようにする対策が必要。

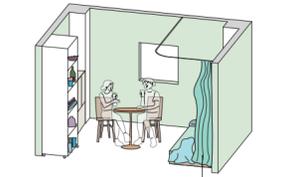


スタッフ用 小上がり 収納

Cさん グループホーム入居者 女性 障害支援区分5(知的障害、強度行動障害、多動症)

共同生活援助を利用して生活しながら、日中は別の場所の生活介護事業所に通っている。他人の食事内容も欠かさず確認するほど食が好き。夕食は自分で献立を考え、買い物・調理をして食べている。調理技術や金銭面の不安は、シェアハウスの入居者と共同購入・共同調理することで解消している。
・プライベートは多少気にするが、人との関わりを楽しむ。
・一人で楽しむ活動が全くなし、一人のときはぼんやりと床に座り込むか寝ている。
・多動症で何回か水中毒で意識を失っているの見守りが必要。
・自分で食材を買って、食材を保管できる棚があるといい。食事を楽しむためにお気に入りの食器を持っている。

・基本的にはベッドの部屋
・プライベート空間は隠しつつ、自分専用の空間を共有部を開いて、好きな人を家に招くような形で談笑したり一緒にご飯を食べられるスペースがあるといい。テーブルと椅子がある。
・自分の食材を保管できる棚や冷蔵庫がある(飲料は保管しない)。気に入った食器を保管する食器棚もある。

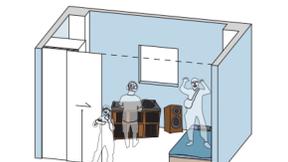


カーテン

Dさん シェアハウス入居者 男性 大学生・共同生活援助生活支援員・建物管理スタッフ

近くの大学に通いながら、朝夕の空いた時間でグループホームの支援員や共用部の清掃の仕事をしている。食費の節約にもなるので、夕食はグループホームやシェアハウスの他の入居者と食材を共同購入し、調理して食べることが多い。
・夜中にゲストハウスの宿泊者と支援のことや最近のおいしいことなど雑談することを楽しみにしている。
・時々クラブイベントでDJをしており、週末は開放した自室の機材で練習しながら館内に音楽のお披露分。

・床はフロアリングを好む
・CDを並べたり、荷物を置く収納
・ベッドの下に収納
・基本的にいつでも訪ねてきてもらいたいので、オープンな部屋で良いが、寝る際だけ閉じられる引戸で間仕切りしたい。



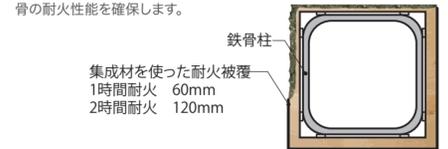
引戸

計画概要

計画地：静岡県浜松市中央区田町 326-23
地域地区：商業地域 防火地域
敷地面積：207.28㎡
建築面積：169.32㎡ 延床面積：926.11㎡
1階：163.37㎡ 2階：117.66㎡ 3階：145.08㎡
4階：140.92㎡ 5階：131.23㎡ 6階：115.38㎡
7階：107.61㎡ 塔屋階：4.86㎡

木製耐火被覆

準耐火構造の燃え代設計のように、木の表面に着火するものの炭化層を形成し、内部へ熱の侵入を遅る性質を使い、集成材で鉄骨を覆うことで鉄骨の耐火性能を確保します。

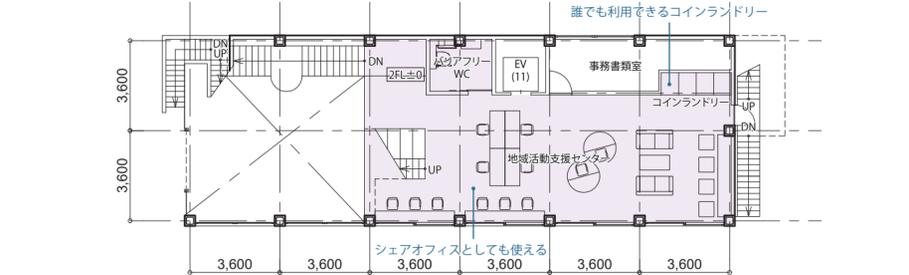


ガラスシャッター

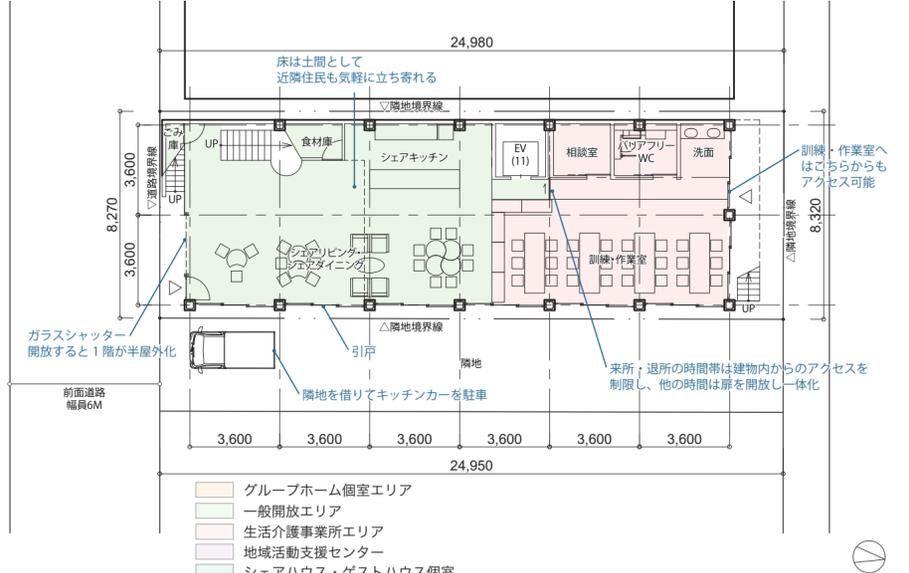
店舗やガレージなどで使われる既製品のガラスシャッターを道路側に設置し、開放することで1階が半屋外化され、人々が気軽に出入りできます。



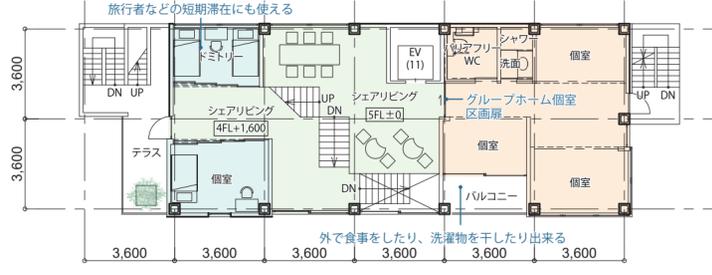
ガラスシャッター(閉鎖) ガラスシャッター(開放)



2階平面図:1/200



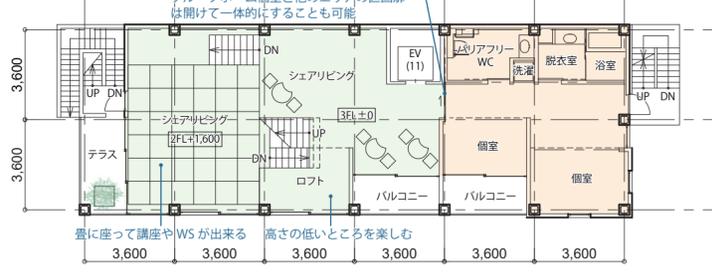
1階平面図兼配置図:1/200



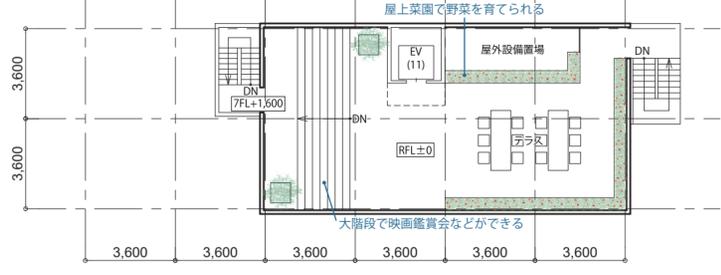
5階平面図:1/200



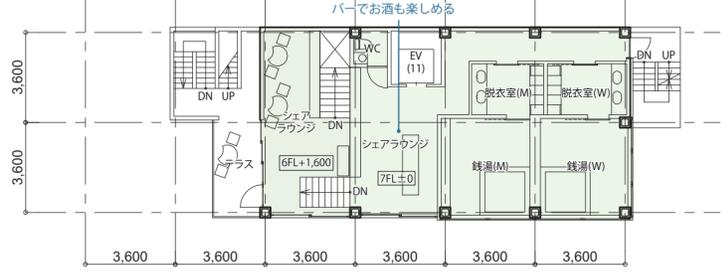
4階平面図:1/200



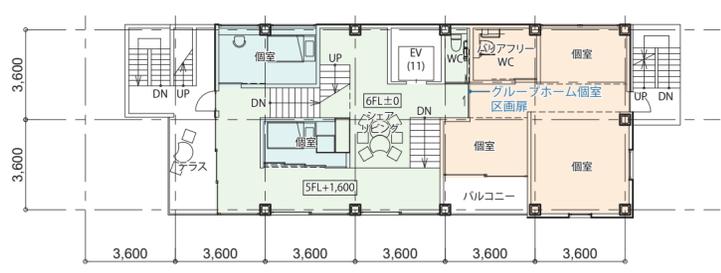
3階平面図:1/200



7階平面図:1/200



6階平面図:1/200



3階平面図:1/200